

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人
紫波町社会福祉協議会

目

次

第1 法人運営	1	介護保険事業	
1 組 織		1 介護事業の状況	11
2 会 費	2	2 居宅介護支援事業(ケアプラン作成)	
第2 福祉基金保有高		3 訪問介護支援事業(ヘルパー派遣)	
第3 会議・監査会の開催状況		4 障害者居宅介護事業(ヘルパー派遣)	12
1 理事会		5 障害者外出介助事業(カイトヘルパー派遣)	
2 評議員会	3	6 基準緩和訪問型サービス(ホームヘルパー派遣)	13
3 監査会		7 緩和型訪問介護者養成研修	
4 地域福祉団体との懇談会等		8 元気はつらつサロンふれ愛交流館(デｲサービス)	
第4 福祉活動推進事業	4	虹の保育園	
1 広 報		1 保育実務状況	14
2 金婚を祝う会の開催		2 特別保育実施状況	15
3 福祉用具の貸出		3 防災訓練・交通安全教室実施状況	16
第5 地域福祉活動の推進	5	4 給食実施状況	
1 日常生活自立支援事業		5 衛生状況	17
2 資金貸付事業 生活福祉資金 たすけあい金庫		6 児童の健康診断実施状況	
3 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)、生活困窮 相談支援事業		7 保護者との連携	
4 地域包括支援活動事業	6	8 地域交流	18
5 法人連携等による地域福祉活動支援事業		9 卒園児就学予定小学校との連携	
6 高齢者安否確認システムの利用推進	7	10 職員の資質向上のための研修	
第6 共同募金配分、歳末たすけあい運動事業		11 諸会議の開催及び参加	19
1 「ふれあいフェスタ」		12 視察、実習生の受入	
2 ボランティア協力校の指定		13 苦情・相談の受付	
3 福祉団体等への活動支援		14 事故・ヒヤリハット	20
4 赤い羽根共同募金	8	地域子育て支援センター	
5 歳末たすけあい募金		1 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進	24
第7 紫波町受託事業		2 子育て等に関する相談・援助の実施	
1 無料相談事業「ふれあい相談所」		3 地域の子育て関連情報の提供	25
2 移送サービス	9	4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施	
3 高齢者サロン「いこいの家」助成事業		5 地域支援活動の実施	
4 高齢者ふれあい交流事業		6 世代間交流	26
5 三障がい者スポーツ交流会		7 特別支援活動の実施	
第8 ボランティアセンター事業	10	けやき学園	
1 お話し相手ボランティア		1 事業所運営に関すること	27
2 配食ボランティア		2 利用者支援に関すること	
3 高齢者サロン「いこいの家」		3 その他の事業・活動について	28
4 ボランティア活動保険加入状況			
5 フードバンクへの協力		さくら製作所	
6 被災地支援		1 事業運営に関すること	29
第9 職員研修		2 利用者支援に関すること	
		3 生産活動の状況	30
		4 その他の事業・活動について	

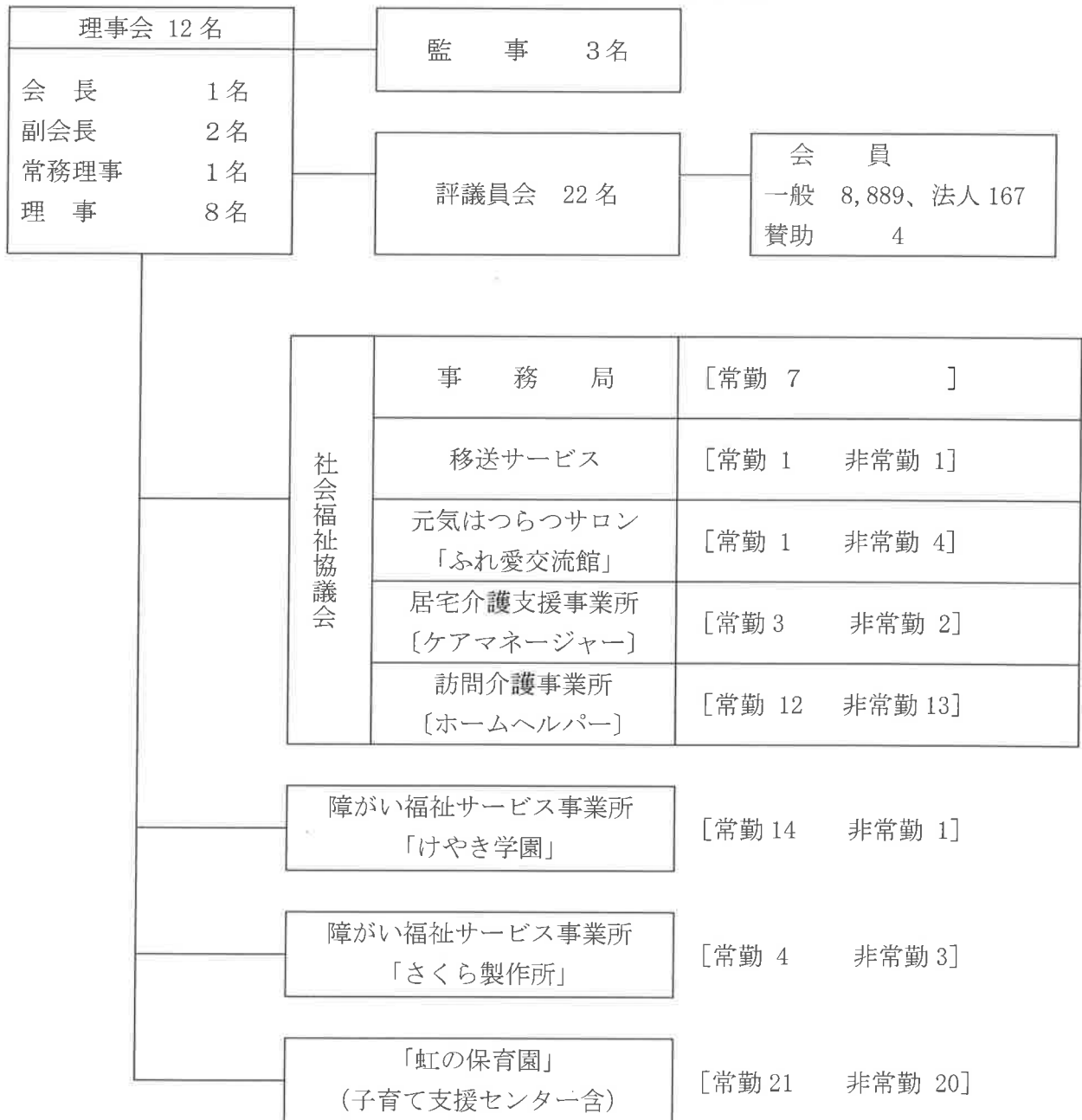
令和元年度

紫波町社会福祉協議会 事業報告書

第1 法人運営

1 組織

令和元年度組織図（3月末現在）



職員総数

常勤 63 非常勤 44 計 107 人

2 会 費

(1) 会 費

・個人会費 1,000 円 ・法人、賛助会員 3,000 円

(2) 実 績

・個人会費 8,889,000 円 ・法人会費 660,000 円 (167 法人)
・賛助会費 75,000 円 (4 団体) ・合 計 9,624,000 円

第2 福祉基金保有高

前期末残高	当期取崩額	当期積立額	当期末残高
53,891,797 円	0 円	204,431 円 〔 寄付金 199,029 利息配当等 5,402 〕	54,096,228 円

第3 会議・監査会の開催状況

1 理事会 理事定数 12 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第 1 回	5 月 20 日	12 (2)	・平成 30 年度事業報告、決算 ・平成 31 年度補正予算(第 1 号) ・職員給与規程一部改正 ・介護サービス拠点人件費取り崩し ・評議員候補者の推薦 ・選任解任委員会の招集 ・定時評議員会の招集
第 2 回	6 月 5 日	10 (2)	・会長副会長並びに常務理事の選任 ・評議員選任解任委員の選任
第 3 回	8 月 27 日	10 (2)	・保育所管理運営規程の一部改正
第 4 回	12 月 17 日	11 (2)	・歳末たすけあい運動の配分 ・介護サービス事業状況報告
第 5 回	3 月 10 日	11 (2)	・ふれいあい相談所設置規程の一部改正 ・保育所管理運営規程の一部改正 ・指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正 ・児童サービス拠点における積立 ・平成 31 年度補正予算 (第 2 号) について ・令和 2 年度事業計画について ・令和 2 年度予算について ・評議員会の招集について ・事務局長の選任について

2 評議会 定数 22 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第 1 回 定時評議会	6 月 5 日	18 (2)	・平成 30 年度事業報告、決算 ・平成 31 年度補正予算(第 1 号) ・紫波町社会福祉協議会役員の選任
第 4 回	3 月 18 日	16	・児童サービス拠点における積立について ・平成 31 年度補正予算(第 2 号)について ・令和 2 年度事業計画について ・令和 2 年度予算について

3 監査会

	開催月日	監 査 内 容
第 1 回	5 月 7 日	・平成 30 年度 1 月～3 月事業内容 ・平成 30 年度 1 月～3 月定例監査 ・平成 30 年度決算監査
第 2 回	7 月 26 日	・平成 31 年度 4 月～6 月事業内容 ・平成 31 年度 4 月～6 月定例監査
第 3 回	10 月 31 日	・令和元年度 7 月～9 月事業内容 ・令和元年度 7 月～9 月定例監査
第 4 回	1 月 29 日	・令和元年度 10 月～12 月事業内容 ・令和元年度 10 月～12 月定例監査

4 地域福祉団体との懇談会等

会議名	開催月日	出席者	内 容
地区社会福祉協議会との懇談会	7 月 19 日	14	・地域福祉活動計画と町社協事業の説明と懇談
町内社会福祉法人連携ネットワーク推進協議会	5 月 24 日	20	・共同実施連携事業と予算事業は買物支援、就労支援
	6 月 28 日	26	・法人連携ネットワーク事業協定調印式
	12 月 13 日	20	・事業と決算の報告
町内社会福祉法人実務担当者連絡会	4 月 26 日から 10 回	延 25	・地域福祉推進事業について
地域福祉活動計画策定委員との懇談	2 月 21 日	11	・地域福祉活動計画の進捗状況報告とアクションプランについて意見交換
紫波型地域食堂の開催協議	6 月 5 日から 5 回	117	・こども食堂を地域の方々とともに安心感がある居場所の提供を目指して中央公民館で開催

第4 福祉活動推進事業

1 広報

(1) 社会福祉協議会広報紙「社協だより」の発刊

社会福祉協議会事業の紹介の他、福祉情報を提供しました。

- ・発行回数 6回（全世帯と法人会員に配布）

(2) 「福祉声のおたより」の発行

朗読ボランティア「銀の鈴」の協力を得て、広報紙をCDやカセットテープに録音し、視覚障害者へ提供しました。

- ・録音項目 町広報、町議会報、社協広報他町内関連文書
- ・会 員 7名
- ・利 用 者 10名

2 金婚を祝う会

長年苦楽を共に歩んできた夫婦の結婚50周年を祝し「金婚を祝う会」を開催しました。

- ・期 日 11月24日（日）
- ・場 所 ラ・フランス温泉館 ホテル湯楽々
- ・参 加 者 6組、12名
- ・記念写真・郷土芸能、50年の思い出ビデオレター

3 福祉用具の貸出

(1) 車椅子貸出（保有 16台）

歩行困難者の日常生活支援のため、6ヶ月間を限度に車椅子を無料で貸出しました。

- ・貸出延数 23台（町民16台、小学校4台⇒日詰4、古舘地区社協3）
- ・貸出期間 1日4件、2～7日14件、8日～3ヶ月5件

(2) 福祉教育用具貸出

学校の福祉教育推進のため、福祉用具を無料で貸出しました。

- ・貸出延数
高齢者疑似体験セット（保有19セット） 1回（二中1）
白杖（保有39本） 2回 日詰小、一中
点字器（保有39セット） 3回 日詰小1、赤石小1

第5 地域福祉活動の推進

1 日常生活自立支援事業の支援

障がい者や高齢者の金銭管理を支援しました。

- ・利用者数 18名（3月末現在）
- ・生活支援員（紫波町担当） 3名（週1～2回訪問）

2 資金貸付事業

(1) 生活福祉資金（県社協委託事業）

資金名		件数	貸付総額	貸付限度額
当期決定貸付総額		10件	5,266,000円	
内 訳	緊急小口資金	6件	519,000円	100,000円
	福祉資金	0件	0円	対象経費による 50万～580万円
	総合支援資金	1件	390,000円	単身15万、2人～20万
	つなぎ資金	0件	0円	必要最小限
	教育支援資金	3件	4,357,000円	

※前年度 10件 6,965,000円

(2) たすけあい金庫

緊急出費を要し、援護の必要がある方を対象として資金貸付を実施しました。

- ・利用限度額 50,000円
- ・当期利用状況 0件 0円

3 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）生活困窮相談支援事業【継続事業 町補助】

岩手県社会福祉協議会と連携し相談窓口対応を行い、継続的支援を要する場合には、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等を示し、複合的な生活課題に対して町を含めた関係機関と連携し、個人や世帯への支援を行いました。

主な支援内容は、相談、同行支援（病院、銀行、不動産等）、食糧支援等です。

(1) 相談内容と件数

- ・相談件数 165件（初回相談18件、継続相談147件）
- ・相談内容 収入・生活費36件、仕事19件、住まい14件、債務税滞納19件
生保申請7件、人間関係9件、通院養育不十分72件
※一人で複数相談あります。

(2) 出前相談の実施

身近に相談できる機会として、オガールの情報交流館を会場に『ふれあいカフェ』を開催しました。

- ・日時 令和元年10月～2年1月まで 4回開催
- ・場所 紫波町情報交流館
- ・相談者 21名

(3) ふれあいミーティングの開催

個人や世帯に対し継続的に支援を行うため、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等を、町を含めた関係機関と連携し情報共有を図り支援を行いました。

- ・令和元年4月から 毎月1回開催
- ・町総合福祉センター
- ・町、県社協、町社協（CSW、SC）、障害者基幹相談支援センター（矢巾町）、図書館司書等

4 地域包括支援活動事業 【継続事業 町委託 650 千円】

介護保険による高齢者への生活支援サービスの対象者は増えることが見込まれることから、関係する団体や地域の方とのネットワークを構築するとともに、地域で需要が見込まれる高齢者向けサービスを支える新たな取り組み構築を目指しました。

(1) 取り組み

いこいの家やサロンに出かけ、日常の暮らしぶりを聴いています。その中で生活の知恵や工夫を教えて頂いた『お宝』をまとめた『まちのあつまりっこ』を作成し、紫波中央駅待合施設や公民館に配りました。

(2) シンポジウムの開催

たすけあい・支え合い・地域のお宝発表会と題した活動紹介を行い、町全体で支え合いの意識を共有する機会として開催しました。

- ・日 時 令和2年2月15日（土）
- ・場 所 紫波町情報交流館 ・参加者 130 名
- ・内 容 日常の暮らしの中にある住民同士の支え合いを『地域の宝』として制度やサービスを上手に活用した、お宝を生かした地域づくり町内4か所の取り組みの事例紹介をしました。

5 法人連携等による地域福祉活動支援事業 【新規事業、法人拠出】

地域福祉活動のなかでみつかった生活課題に対して、地域での新しい支え合いを推進するため、解決に結びつく専門家・社会福祉法人・ボランティアと連携をし関わるネットワーク形成を図りながら新たな取り組みを行いました。

(1) 町内法人連携による共同実施推進事業

① 買い物等支援事業

- ・日 時 令和元年9月から3月まで 第一水曜日 延べ7回実施
- ・車 両 5台（大樹会・紫波会・爽生会は各1台、社協2台）
- ・利用状況 登録者 21 名 利用実績 延べ 96 名
利用者は町中央部から離れた地域の方が利用しています。
- ・実施内容 盛岡南ショッピングセンターで買い物 50 分

② 就労準備支援ボランティア事業

社会福祉法人施設を就労の場として提供し、短時間の軽作業等を行いながら、一般就労を目指す中間的就労支援を行いました。

- ・期 間 12 月～2 月 ・就労体験者 2 名
- ・就労日数 延べ 21 日間 ・日 当 21,000 円
- ・就労内容 施設内清掃、車両洗車
- ・1 名は町内事業所への一般就労に結びつきました。

(2) 紫波型地域食堂の開催

ひとり親家庭等の子どもを対象に、地域の方々とともに安心感がある居場所を提供することで、地域全体で子どもたちを見守る・育てるきっかけになることを目指しモデル事業として開催いたしました。

- ・開催日等 6月～3月まで5回
- ・会場 紫波中央公民館
- ・内容 県主催の紫波町学習支援利用者と家族へ食事を提供
- ・参加者 日詰地区 延べ50世帯 117名
- ・財源 寄付金と協力金 21,263円
- ・協力者 民生児童委員等 18名

6 高齢者安否確認システムの利用推進

【県社協事業】

独居高齢者を対象に、電話による安否確認システムの利用を推進しました。

- ・利用実績 1件

第6 共同募金配分、歳末たすけあい運動事業

1 地域交流イベント「ふれあいフェスタ」

障がい者と健常者がお互いの立場を理解し交流を深めるために開催しました。

- ・実施日 10月5日(土) 10:00～14:00
- ・場所 オガールプラザ内「紫波町情報交流館」
- ・参加団体 コンサート(出演 9団体 町内9団体)
体験・展示(参加 16団体 販売・軽食(出店 16団体)
- ・発表団体 虹の保育園児、けやき学園・さくら会・平和台病院、PL岩手MBA
ムーブメントしわ、ノーマライズ、波音、人権擁護委員

2 ボランティア協力校の指定

町内小・中学校全校及び紫波総合高校をボランティア協力校に指定し、ボランティア活動の推進に努めました。

- ・活動助成金 7校総額 186,348円
- ・活動内容 キャップハンディ体験、高齢者との交流、環境整備、施設訪問

3 福祉団体等への活動支援

【1,345千円】

(1) 事務を受託している団体 (7団体)

ボランティア連絡協議会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、身体障がい者福祉協会、母子寡婦福祉協会、更生保護女性の会、手をつなぐ親の会

(2) 子育て支援

【80千円】

就学前児童の子育てひろば(子育てサロン)を開催しているボランティアグループを対象として、スタッフの資質向上を図るための研修会等を開催しました。ひろばの活動は地区公民館を拠点に、月1～2回親子の交流機会を開催しました。

① 講演「子どもの体と心を育てる食とは」

- ・実施日 5月29日(水)
- ・場所 古館ふれあいホール
- ・講師 岩手大学非常勤講師 吉田智子氏
- ・参加者 35名

(3) 行政区長協議会等への支援

【220 千円】

4 赤い羽根共同募金

(1) 募金運動

・運動実施期間 10月～12月 ・募金実績額 6,214,339円

(2) 福祉支援事業助成（1件5万円限度）

・決定団体数 11団体 ・助成金額 496,000円

(3) 社会福祉協議会が行う事業へ助成

・事業数 5事業 ふれあいフェスタ、いこいの家、社協だより
ボランティア協力校、障害者団体等活動への助成
・助成金額 4,284,000円

5 歳末たすけあい運動

低所得世帯や母子・父子世帯や常時介護を要する方に、義援金を配分しました。

・運動実施期間 10月～12月 ・募金実績額 5,202,157円
・配分額 4,328,000円
・配分内訳

区 分		世帯・人員	単 価	金 額
要保護世帯	高齢者・母子等世帯	318世帯	11,000円	3,498,000円
常時介護を要する個人	寝たきり・認知高齢者、重度心身障害者	131人	6,000円	786,000円

第7 紫波町受託事業

1 無料相談事業「ふれあい相談所」

住民の抱えている課題解決に援助、協力するため、無料相談所を開設しました。

・実施日 毎月第1水曜日、 弁護士毎月第3水曜日
・場 所 福祉センター団体室
・相談員 人権擁護委員7名、弁護士1名
・件数内訳

生 計	年 金	職業・生業	住 宅	家 族	結 婚
2	0	0	2	20	0
離 婚	健康・衛生	医 療	精神衛生	人権・法律	財 産
6	0	0	1	17	12
事 故	児童・母子保健	教育・青少年	心身障害者	母子・父子福祉	高齢者福祉
0	1	0	1	0	1
苦 情	日常生活自立支援	その他			合 計
1	0	2			66

その他の相談内容 ①隣人からの嫌がらせ

2 移送サービス

車椅子利用者等で一般の交通機関の利用が困難である高齢者や障がい者（町認定者）を対象として、病院や福祉施設等へ移送する有償のサービスを実施しました。

- ・利用登録者数 64 名
- ・利用延べ回数 456 回
- ・運転手 3 名
- ・専用車両 3 台

3 高齢者サロン「いこいの家」助成事業

町内のひとり暮らし老人や老夫婦世帯の孤独感解消や健康保持を目的に、ボランティアが実施する高齢者サロン事業「いこいの家」に、補助金を交付しました。

- ・交付額 1 回 3,400 円（財源内訳 町 2.4 千円、社協 1 千円）
- ・地区別開催状況

日 詰	古 館	水 分	志 和
15 箇所 77 回	6 箇所 43 回	7 箇所 27 回	15 箇所 89 回
赤 石	彦 部	佐比内	赤 沢
17 箇所 43 回	7 箇所 35 回	9 箇所 27 回	8 箇所 32 回
長 岡	合 計		
10 箇所 53 回	93 箇所 426 回		

4 高齢者ふれあい交流会

65 歳以上の一人暮らし老人及び共に 75 歳以上の二人暮らし世帯を対象に、次の事業を実施しました。

(1) 日帰り温泉旅行

- ・実施月日 11 月 11～13 日
- ・場 所 ラ・フランス温泉館湯楽々
- ・参 加 者 115 名参加
- ・運営協力者 民生児童委員 11 名
- ・事業費 705,473 円
- ・利用者負担金等 304,500 円

(2) 配食サービス

毎週金曜日に昼食弁当をボランティアが配布しました。

- ・利用者 39 名（3 月末現在）
- ・利用者負担 1 食 300 円
- ・実施回数 51 回
- ・配食総数 2,094 食
- ・受託料 418,800 円
- ・利用者負担 628,200 円
- ・事業費 1,292,027 円
- ・事業者支払 876,800 円

5 三障がい者スポーツ交流会

障がい者の体力増強、交流を目的にスポーツ交流会を実施しました。

- ・実施時期 12 月 7 日（土）
- ・実施場所 マッハランド
- ・実施種目 ボウリング
- ・参 加 者 当事者とスタッフ 53 名

第8 ボランティアセンター事業

1 お話し相手ボランティア

高齢者はつつつサロン「ふれ愛交流館」のボランティアとして活動しました。

- ・実施日 毎週火～金曜日
- ・場 所 総合福祉センター
- ・登録人数 1名

2 配食ボランティア

65歳以上一人暮らしや、概ね75歳以上の夫婦世帯におかずを届けながら見守りの安否確認も行いながら、年間51回昼食配食のボランティア活動を行いました。

- ・利用者 39名
(日詰8、古舘5、水分・志和5、赤石11、彦部5、佐比内5、赤沢0、長岡0)
- ・ボランティア登録人数 37名

3 高齢者サロン「いこいの家」ボランティア

各地区の「いこいの家」運営に、ボランティアとして携わりました。

- ・お世話延べ人数 2,249名
- ・開催回数 426回
- ・利用者総数 6,239名

4 ボランティア活動保険加入状況（合計 1,091名は前年比△157名）

区分	団体加入	個人加入	加入者計
基本タイプ	20団体 1,052名	2名	1,054名
天災タイプ	0団体 0名	2名	2名
行事保険タイプ	3団体 94名	0名	35名

5 フードバンクへの協力

町内で行われたイベントなどで食品回収ポストを設置し、これまでに22回ご協力いただいた食糧をフードバンク岩手（盛岡市）へ届けております。

6 被災地支援

(1) 被災地への義援金支援等

- ・九州北部大雨災害義援金 9月3日～10月23日 ・義援金 38,479円
- ・台風19号大雨災害義援金 10月28日～12月27日 ・義援金 133,691円
- ・台風19号大雨災害復旧支援 10月18日から延13人日普代村へ派遣

第9 職員研修

1 紫波町社会福祉協議会職員研修

- (1) ・実施日時 7月19日（金）午後6時30分から ・参加者 63名
- ・内 容 「自ら機会をつくり自ら学ぶ」
- ・講 師 岩手県ボランティア団体連絡協議会
会長 加藤 隆男 氏
- (2) ・実施日時 11月6日（水）午後6時30分から ・参加者 60名
- ・内 容 「障がい者支援で必要だと考えること」
- ・講 師 紫波地域障がい者基幹支援相談支援センター
所長 田代 拓之 様

令和元年度

介護事業報告書

1 介護事業の状況

介護が必要な高齢者及び障がい者が、住み慣れた自宅で安心して暮らせるように、利用者自身が個々に持っている力を引き出し、その力を支え生かしながら各種の支援・介護を行いました。

2 居宅介護支援事業（ケアプラン作成）

介護保険において要介護認定を受けた方の介護サービス計画（ケアプラン）の作成、見直し及び介護サービスに関わる連絡・調整等を実施しました。

- ・利用者数（3月実績） 155名 要支援14名含む。（前年度145名）
- ・介護支援専門員数 5名（前年度5名）
- ・総収入額 26,083,590円（前年度+74,500円）
- ・特定事業所加算Ⅲ取得（条件 常勤職員3名、主任介護支援専門員2名）
平成28年11月取得 加算額 3,000円/1人1カ月

3 訪問介護事業（ホームヘルパー派遣）

要介護認定者（1～5）と要支援者（1・2）に加え、平成29年度からそれに準じた方（事業対象者）に対しても訪問介護サービスを提供しております。これまで要支援1～2の方が利用していた介護予防サービスは、平成29年度から介護保険制度実績表の派遣回数・時間の下段の現行相当サービスとなりました。

平成31年4月から、勤務シフト作成ソフトとスマホを活用したことで、勤務日程と勤務内容報告等を紙媒体から電子媒体保存となり改善されました。

・訪問介護利用実績

（単位：人、回、時間、千円）

年 度 区 分		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
契約者数		115	108	105	107	112	129
実利用者数	事業対象者	—	—	—	1	0	1
	要支援1	7		6	1	1	1
	要支援2	17	20	14	11	11	6
	要介護1	31	29	29	24	24	38
	要介護2	28	18	23	13	23	24
	要介護3	18	20	18	17	11	17
	要介護4	6	3	7	7	6	4
	要介護5	5	8	4	8	1	2

	計	112	103	101	82	77	93
派遣回数	身体介護	6,698	6,693	6,940	8,010	6,685	5,185
	生活援助	6,752	5,740	4,286	3,543	2,046	1,298
	身体・生活	2,390	1,959	1,997	2,361	2,698	3,007
	介護予防	266	308	346	123	0	0
	現行相当	—	—	—	420	649	510
	計	16,106	14,700	13,569	14,457	12,078	10,000
派遣時間	身体介護	4,044	4,130	4,444	5,250	4,770	4,060
	生活援助	6,590	5,705	4,184	3,603	2,048	1,366
	身体・生活	3,676	2,739	2,790	3,163	3,630	4,147
	介護予防	1,258	1,342	1,334	507	0	0
	現行相当	—	—	—	542	756	555
	計	15,568	13,916	12,752	13,065	11,204	10,128
収入額 (介護報酬)		51,275	45,860	44,050	48,068	41,390	39,279

・事業費 39,279,933 円（前年度比 △2,110,989 円）

・平成 31 年 4 月から特定事業所加算（10%）3,246,275 円を含みます。

4 障害者居宅介護事業（ヘルパー派遣）

障害者総合支援法における利用者へ居宅介護サービスを提供しました。

・利用実績（単位：人、回、時間、千円）

年 度 区 分	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度
派遣対象者数	14	16	18	22	18	17
派遣回数	2,693	2,278	2,271	2,640	2,549	2,756
派遣時間	2,287	1,985	2,271	2,110	1,984	2,206
自立支援費収入	7,879	6,034	7,538	7,266	6,471	7,178

・事業費 7,178,480 円（前年度比 +707,480 円）

・令和元年 10 月から特定事業所加算（10%）326,290 円を含みます。

5 障害者外出介助事業（ガイドヘルパー派遣）

【継続事業 町委託】

町認定の障がい者を対象として、ガイドヘルパーを派遣し、外出介助を実施しました。

・利用者数 3 名（前年度 5 名） ・派遣回数 144 回（前年度 155 回）

・派遣時間 446 時間（前年度 490 時間）

・事業費 634,600 円（前年度△22,300 円）

6 基準緩和訪問型サービス（ホームヘルパー派遣）

介護保険要支援に準じ、町認定者チェックリストで判定された高齢者を対象に、週1回ホームヘルパーを派遣してきました。平成29年から事業を基準緩和型サービスとして継続し、平成30年7月からは利用回数を週1回から2回まで認められ実績は増えております。

・利用実績

（単位：人、回、時間）

年度 区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
派遣対象	8	6	5	20	21	23
派遣回数	481	453	316	417	1,117	1,238
派遣時間	521	486	299	308	837	922

・受託金額 2,423,948 円（前年度 2,180,104 円） 派遣対象者は年度末の実績

・事業名 29年度から基準緩和訪問型サービス、28年度までは「生活指導員派遣事業」

7 緩和型訪問かいご者養成研修

【継続事業 町委託】

紫波町総合介護サポーター養成講座

- ・日 時 7月29日～30日（月火）
- ・会 場 紫波町総合福祉センター
- ・主 催 紫波町、町社会福祉協議会
- ・参加者 8名
- ・内 容 コミュニケーション技術、事故防止・緊急対応、生活支援技術
- ・事業費 講師は町6名と社協ヘルパー2名で対応しました。

8 元気はつらつサロン「ふれ愛交流館」

【継続事業 町委託】

介護保険要支援者とそれに準じた高齢者（町認定者）を対象に実施しました。

- ・開設日数 194日（火曜日～金曜日）（前年度198日）
- ・開設場所 福祉センター
- ・登録者数 43名（3月末現在）（前年度39名）
- ・延べ利用者数 1,776名（前年度+20名）
- ・実施内容 健康管理、趣味創作、給食、季節行事他
- ・事業費 7,667,080 円（前年比+151,400 円）

[illegible][illegible]

子ども・子育て支援新制度においては、保護者が保育所、幼稚園、認定こども園等を利用する場合、子ども一人ひとりが、その保育希望理由や保育希望必要量により、市町村からの「支給認定」を受けます。支給認定は1号から3号まであり、認定の違いにより、利用する施設や時間数も異なります。当園は「保育所」であるため、2号、3号認定の児童についての保育を実施しました。

- ・開設日 月曜日～土曜日（日曜日、祝祭日、年末年始除く）289 日
- ・開設時間 午前 7 時～午後 6 時（延長保育午後 6 時～7 時）

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	計
定員	12	18	18	20	26	26	120
4 月	5	18	17	24	25	29	118
10 月	9	18	19	25	25	29	125
3 月	11	18	19	25	25	29	127

平成 31 年 4 月 1 日から、公私連携型の民間保育園として保育事業を再スタートしました。平成 16 年度創立時からの園の理念、保育方針は変えることなく、保育全体計画、保育年間計画を作成し、個々の発達を大切にしたい保育を実践しました。

① “遊ぶ力”の獲得を目指す取り組みを実施

②人として生きる力の基礎を培う取り組みを実施。

子どもそれぞれの個別保育計画を立案し、個性や発達を捉え、個々にあった働きかけをしました。また、保護者とは、毎日の連絡ノートや送迎時の会話の中で日々の様子を伝え合い、家庭や園での子どもの様子を互いに把握をし、子どもの生活リズムを整えるよう試みました。新規入所児童及び乳児については、個別面談を実施し、保護者とのコミュニケーションをとるよう努めました。

③集団の中で個々が育ち合う取り組みを実施。

異年齢、家庭環境の違い、個々の特質、成長に合わせながら、ともに生活をしたり、遊んだりする中で、子どもたちが様々な体験をし、互いの存在を自然に理解するよう働きかけました。

また、子どものより良い育ちを促していくために、家庭環境について保護者と対話を持っていくようにしました。

④絵本による豊かな心情作りを実施

好きな本を存分に読むことができるように、図書のコーナーを毎日、終日開放。

送迎時に親子でゆっくりと絵本に親しむ環境を提供した。夕方の送迎時に設置したベンチで絵本を一緒に読む親子が毎日見られるようになりました。

⑤畑での野菜の栽培を実施

幼児部を中心として、子どもたち自身で苗や種から野菜の栽培をし、成長の過程を観察し収穫もしました。また、給食担当者とともに収穫野菜を利用し、年長児、年中児を中心に調理体験を行いました。

乳児については、野菜の苗を老人クラブの方に植えていただき、収穫の楽しさを体験しました。

年長児については、地域の方に教えられながら、味噌作りについて栽培から収穫、加工まで、一年を通して取り組みました。また近隣農園の協力により田植えから稲刈りまでを体験し、新米を使った糠窯炊飯体験をしました。

⑥英語体験の実施（毎月2回）

4, 5歳児を対象に外国人講師による英語に触れる機会を設け、ことばに対する興味や面白さを伝えました。

2 特別保育実施状況

(1) 延長保育

月曜日から土曜日まで開設時間を延長し、保育を実施。

平成31年4月からは、利用形態を日単位、月単位の2つを設定。

・時 間 午後6時～7時

・利用者 日単位利用登録延べ人数 37名、利用延べ人数 345名（年間）
月単位利用登録延べ人数 19名、利用延べ人数 2263名（年間）

(2) 一時保育

児童を対象に、時間単位での預かり保育を実施。（紫波町内在住満1歳以上児童対象）

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
利用人数	1009	648	256	423	374	166	149	232

(3) 休日保育

日曜日、祝祭日に保育を実施（紫波町内在住の2号、3号保育認定満1歳以上児対象）

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
利用人数	126	71	42	117	127	200	168	124

3 防災訓練・交通安全教室等実施状況

災害発生時に備え、職員、在園児、子育て支援センター利用者、一時保育利用児全て対象に毎月様々な想定での訓練をし、災害時への対応について啓発活動を行いました。

- ①避難訓練 12回
- | | |
|------------|---------|
| 火災想定 6回 | 地震 2回 |
| 地震～火災想定 2回 | 水害想定 2回 |
- ②初期消火訓練 2回
- ③通報訓練（消防署員立ち合い）2回
- ④交通安全教室 3回
- ⑤土曜日避難訓練 2回
- ⑥定期救命講習の受講 2回 18名

＊訓練終了後、職員全員による個別の反省を提出、安全委員会による全体総括を毎回実施し、月次の職員会議において報告しました。

＊土曜日避難訓練は2回実施し、限られた職員数での避難訓練を実施しました。

＊救命講習については、非常勤職員が受講しました。平成29年度受講済みの職員に加えて全職員が受講を完了しました。

4 給食実施状況

(1) 給食実施結果

厚生労働省が示している食事摂取基準に基づいて乳幼児にとって適切な給与栄養量を確保できるよう、子どもの発育、発達状況や家庭環境、栄養状態を考慮しながら年間の食育計画を立案しました。また、0歳児については入所の月齢を基準とし、家庭と連絡を取りながら、個々の成長に合わせた離乳を進めました。

また、給食についての嗜好調査を行い、日々の献立や調理法の参考としました。

(2) 家庭への食育啓発

①献立表の配布

毎月0～2歳児及び3～5歳児の献立表を入所児の家庭に配布しました。

また、毎月、食事だよりを発行し、季節に合わせた食材や行事食についての提案を行いました。

②給食サンプルの展示

乳児用、幼児用の給食サンプルを玄関ホールに展示し、保育園への送迎時に保護者が実際に見ることにより、子どもの食事について認識を深められるようにしました。

③誕生会昼食会

誕生会の昼食は完全給食（主食、副食）を実施し、3歳から5歳児までの園児がともに食事をした。また、誕生月の年長児の保護者は希望により会食に参加していただきました。

④食事マナーの習得

集団で食事をする中で、どのようにしたら、互いが快く食事ができるかを子どもたちとともに考え、個々の成長、年齢によって食事のマナーを伝えました。

⑤地産地消の推進

産直の野菜など地場産物を積極的に取り入れた昼食を子どもたちに提供しました。また、県産小麦を使用したパン、郷土のおやつなど、完全手づくりによる提供に努めました。

⑥調理の取り組み

給食担当者の指導により、年長児を中心に年齢を考慮した簡単な調理を体験しました。

5 衛生状況

(1) 給食安全管理

給食安全管理に基づき安全な調理を実施しました。

(2) 職員細菌検査

- ・全職員 年1回(4月に実施)
- ・調理及び、乳児担当者、調乳担当職員、 毎月1回実施
- ・調理担当職員ノロウィルス検査 11～3月実施
- ・検査結果 11月ノロウィルス検査でパート調理師1名陽性
ノロウィルス陽性の調理師については無症状でしたが、医療機関に受診し、出勤停止としました。10日後の再検査での陰性を確認し12日後に出勤しました。

(3) アレルギー除去食の提供

乳製品、卵、木の実、魚介類等食品についてアレルギー症状を示す乳幼児についてクラス担任と栄養士、調理師が連携を取りながら、医師による診断書に基づき保護者と相談の上、個別に献立を作成し、除去食を提供しました。

6 児童の健康診断実施状況

児童の内科健診を年に2回(5月、10月)…0歳児～5歳児対象

歯科健診を2回(6月、11月)…0歳児～5歳児対象

29年度導入した標準的感染対策法(おむつ替え、嘔吐物処理方法)が職員間で定着し、児童、職員共に胃腸炎の大きな流行はなく、令和元年度においては、感染対策法導入の一定の効果はありました。今後も対策を持続し、子どもたちの健康維持に努めます。

7 保護者との連携

(1) 父母の会

- ・役員会…保護者と保育園、保護者同士の連携を深め、バザーをはじめ、各行事宮にご協力をいただきました。(年5回)
- ・園内環境整備…園舎内清掃や園舎床ワックスがけ、草取り、草刈にご協力をいただきました。(年1回)
- ・幼児教育・保育無償化説明会…令和年10月の、幼児教育・保育無償化導入についてこども課からの説明会を実施しました(8月31日土曜)

(2) 保護者

送迎時に保育実践の場面での出来事を通して、保護者と対話を持ち、個人連絡帳を活用しながら、より細やかなコミュニケーションを図りました。

また、保育参観日やクラス懇談会を開催し、保育内容の公開、育児相談、意見交換などを実施することにより、保育士と保護者、保護者同士の交流の場を作りました。

8 地域交流

(1) 異世代間交流

- ①支援センター高齢者ボランティアグループ「そよかぜクラブ」との交流
 - ・畑作り、栽培、収穫を楽しみました。
 - ・みずき団子づくりを2歳児、3歳児と行いました。
 - ・ひな饅頭作りは感染症（リンゴ病）の流行により実施を見合わせました。
- ②日々の保育場面での小中学生とのふれあい交流を実施しました。
- ③志和地区の高齢者クラブの協力により、地区の高齢者を園にお招きして、園児と遊びの時間を通して交流を図りました。（年5回）
- ④前年度卒園児の同窓会を開き、卒園前に仕込んだ味噌を使って、お握りを作り、皆で味わいました。

(2) 関係団体との交流

- ①地域行事「夏祭り」の参加は台風により中止。
- ②敬老会、紫波町産業まつりへの出演、金婚を祝う会へはビデオレターにより出演。
- ③近隣老人介護施設入所者との交流（七夕、クリスマス、ハロウィン）
- ④地区公民館での小正月行事に4、5、歳児が参加（みずき団子作り）
- ⑤花卉生産者によるフラワーアレンジメント体験講座（年長児）

(3) 普及、啓発活動

- ①夏祭り、運動会、発表会等の諸行事の案内、ポスター掲示
- ②保育園便りを社協広報へ掲載
- ③保育の様子、行事等園便りとして保護者に配布
- ④社協ホームページに園行事等について掲載
- ⑤健康及び感染症に関する保健だよりの発行
- ⑥給食便り、献立表の発行

9 卒園児就学予定小学校との連携

保育所児童保育要録…令和元年度年長児担任が各校へ出向き、申し送りを実施。

平成29年全部改正、平成30年4月施行の保育所指針に則り、「幼児期までに育ってほしい姿」を主軸とした個々の児童についての保育所児童保育要録を作成し、令和元年度に各小学校へ送付しました。

10 職員資質向上のための研修

(1) 園外各種研修会への参加各種研修会への参加

- ・紫波ブロック保育協議会栄養士研修（6月7日紫波町給食センター・オガールスタジオ）
- ・紫波ブロック保育協議会看護師研修（6月13日オガール保育園、認定こども園ひかりの子）
- ・令和元年度感染症及び食中毒予防対策研修会
- ・児童福祉施設関係栄養士研修（10月11日）
- ・幼保小連携推進研修会・虹の保育園公開保育（11月8日）

- ・紫波ブロック保育協議会副園長・主査主任研修（11月13日県立資格支援学校）
- ・岩手県保育士キャリアアップ研修

前期日程 乳児保育（8月10、11日岩手県立大学）1名

幼児保育 { 9月6日花巻幼稚園、花巻市生涯学園都市会館 } 3名
 { 10月9日花巻市西公園保育園、花巻市文化会館 } 3名
 { 11月24日なはんプラザ } 2名

（9月22、23日岩手県立大学）2名

障がい児保育（8月22、23日岩手県立大学）2名

マネジメント（8月26、27、28日岩手県立大学）1名

後期日程 マネジメント（12月23、24日アイーナ）1名

障がい児保育（1月30、31日アイーナ）

乳児保育（1月12、13日岩手教育会館）1名

幼児保育（2月8、9日岩手県高校教育会館）1名

保護者支援（2月15、16日岩手県高校教育会館）2名

（2）園内研修の実施

- ①保育園における保健・衛生について
- ②園周辺の散歩マニュアルについて
- ③食育計画について
- ④フラワーアレンジメント講習会（リフレッシュ研修）

11 諸会議の開催及び参加

（1）職員会議

- ①職員全体会議、組リーダー会議を毎月1回実施。
- ②給食担当者会議、乳児部、幼児部リーダー会議を必要に応じ実施。
- ③乳幼児部連絡会議を毎週1回実施。

（2）関係機関の会議への参加

- ・紫波町福祉相談窓口連携会議
- ・紫波町幼児教育連絡会
- ・紫波町障がい者自立支援協議会

12 視察、実習生の受け入れ

（1）視察	1校	25名
（2）保育士養成学校生保育実習	2校	3名
（3）小中学校生徒保育体験	4校	134名
（4）学生ボランティア	2校	3名
（5）社会福祉士養成課程学生	1校	1名

13 苦情・相談の受付

- （1）苦情…0件

14 事故・ヒヤリハット

(1) 事故…9件 治療補償金として3件79,124円お支払しております。

児 童	日・時刻	内 容	園の対応
5歳児 男児	令和元年 6月14日	給食を食べ終わり、自分の弁当箱をカバンに片付けようとしたところ、体制を崩し、隣の児童の椅子の角に頭をぶつけてしまった。 左眉の上を裂傷。	担任は、その場で止血。園長看護師に報告。看護師により、傷口の処置。傷口はやや深く、保護者への連絡をし、謝罪と説明をし、受診を勧めた。
5歳児 男児	令和元年 6月18日	夕方の自由遊びの時間帯、ドッジホールをしていた本児が足首の痛みを訴える。 ボール等が当たったり、他児との衝突等も無く、痛みを訴えた後は、普段と変わらず動いていた。外傷は無。その後、降園まで状況を観察。夕方保護者が迎えに来た際に本児が「足がジンジンする」と話す。翌日、足を思シーネで固定し登園。 受診の結果は左足関節外側靱帯損傷。	夕方迎えに来た保護者へ、担任から状況を報告。ご家庭でも様子を診て頂くようお願いした。
0歳児 女児	令和元年 7月17日	健康で通常通り、登園したが、前日の夕食後、大量に嘔吐したとの連絡事項有。 朝のおやつ時、おやつを食べると、喉を詰まらせるように咳き込む為、おやつは中断し、様子を見守る。遊びの様子は普段通り。 給食時、本児は、食べたがり、口を開けるが食べるとすぐに喉に詰まらせ、吐き出す。 ミルクは飲み、午睡。午後のおやつでも乳児用のせんべいを食べた後、喉に詰り、咳き込み、嘔吐。背中をさすり、嘔吐を促すと嘔吐物の中に硬く透明な袋の切れ端を発見した。	担任、看護師により、本児の状態を観察し、保護者へ連絡し、自宅での状況確認を行いながら保育した。 嘔吐物の中で発見した異物について、職員間で確認をしたが、思い当たる物がなかった為、異物を保持し、保護者と共に確認をしてもらった。 保護者は落ち着いて説明を聞いてくれ、受診をしてくれるとの事だった。
1歳児 女児	令和元年 7月19日	本児の姉に処方された薬を、誤って本児に飲ませてしまった。 その後観察をした。本児に発疹等の異常は見られなかった。	看護師が園長に報告。 看護師が保護者に説明と謝罪の一報をする。 処方について、薬局に問い合わせをしても良いか確認。 同時に、担任に状況を説明し、本児の様子を観察してもらうよう依頼。 薬局に確認、注意事項を聞き保護者に再度連絡し、説明をした。

1 歳児 男児	令和元年 9 月 19 日	本児の兄に処方された薬を飲ませてしまった。その後観察を継続。本児に異常は見られなかった。	看護師が園長に報告。 看護師が保護者に説明と謝罪の一報をする。 処方について、薬局に問い合わせをしても良いか確認。 同時に、担任に状況を説明し、本児の様子を観察してもらうよう依頼。薬局に確認、注意事項を聞き保護者に再度連絡し、説明をした。
5 歳児 男児	令和元年 9 月 27 日	給食後、午睡までの異年齢保育時間。 給食を済ませ、午睡の準備を終えた本児が遊戯室で積み木をしていた他児 B の隣に座った際、他児の腕が積み木に触り崩れ、そのことに激昂した他児 B が本児の腕を踏みつけた。本児は痛みを訴えたものの、その後は、何も言えないまま、午後の保育を過ごす。 職員が状況を把握していないまま、午睡、おやつ、降園。保護者が異変に気づき受診。 左上腕骨外顆骨折。(全治 2 か月)	保育士が換気の為に窓を開けるよう、本児と他児 B に背中を向けた瞬間の出来事。本児は腕を抑え泣いて来た。出血等の外傷はなかった。その後、他職員との状況の共有が行われず、本児への対応を行うことができていなかった。 負傷させてしまった他児 B については、迎えに来た保護者に担任から、足を踏みつけたことを伝えた。 園長が負傷した児童の保護者へ謝罪。状況の詳細が把握できていないことを伝える。 他児 B の保護者へ本児が骨折(重症)であることを伝えた。 状況の詳細を調査し、原因、保育園の過失について、職員全体で検証をし、保護者へ謝罪と共に説明を行った。
5 歳児 男児	令和元年 10 月 2 日	登園後の異年齢児保育時間。園庭で友達と鬼ごっこをしていた時、園庭のフェンスに衝突し、左手小指が強くあたり痛める。 帰宅後も痛みを訴えた為、受診。 左小指基節骨骨折。	本児が指の痛みを訴えたため、近くにいた職員に伝え、患部に湿布をはり様子を観察。受診を勧めた。 降園時に保護者に状況を説明し、引き続き家庭でも様子を観察。

4 歳児 女児	令和元年 11 月 1 日	午睡後、自分の布団を片付けている時間。 布団置き場に布団を置こうとしていた時、 前に並んでいた他児が振り返って走った為 ぶつかり、布団を抱えたまま後ろに倒れ、 床に頭をぶつけてしまう。	本児の意識はあったものの、 動揺していた為、医務室で 看護師が様子を観察。外傷、 嘔吐等の確認をした。 同時に園長が保護者へ連絡を し、状況について謝罪と説明。 頭部の打撲であるため、受診 を勧めた。
2 歳児 男児	令和元年 11 月 27 日	午後のおやつ後の自由遊び時間。0, 1, 2 歳児 が遊戯室で遊んでいた時、保育士を誘いなが ら、ボールで遊んでいたところ足を滑らせ転 倒。傍の作り付け木製ベンチに頭をぶつけ 出血。右眉の上に裂傷を負う。	園長、副園長は会議で不在の 為、主任保育士が保護者へ連 絡し状況を説明。その後、園 長へ電話連絡。副園長が直ち に帰園し対応。受診の結果を 聞き、園長へ報告。

(2) ヒヤリハット…7件

児童 (場所)	日・時刻	内 容	今後の対策
1 歳児 男児	5 月 15 日 17:20	1 歳児保育室で、ままごと遊びをしていた 時間。本児が保育士に歩み寄り、口の中を 見せたところ、卵（半分に切った形）の玩 具が入っていた。保育士はあわてて玩具を 口から取り出した。取り出した際に唇の左 を切ってしまった。保護者へ送迎時に報告 謝罪。	玩具の大きさにより、児童の 口の中に入ってしまうものも ある為、1 歳児の玩具として適 当であるか、検証していく。 玩具の管理と誤飲について、園 内全体で再度確認していく。
給食室	5 月 29 日	給食調理をしていた際、魚をトレーから取 り出す際にラップがちぎれて残っていた のに気づかず、焼いて児童に提供してしま った。児童が気づき担任に知らせた。 児童の口にはラップは入っていないか 確認。	異物（ラップ）が給食に混入し ないように、十分に確認をしなが ら作業を進めることを給食職 員で作業工程についての検証 と確認を行う。また保育の場 においても、配膳の際に注意深く 食材を見て、異常に気付く作業 を行うことを再確認した。
給食室	7 月 22 日	調理終了後、清掃退勤の際に電気の消し忘 れ、殺菌灯の点灯忘れがあった。	退勤の際の、チェックシートを 作成し、確認を強化する。
1 歳児 女児	10 月 15 日	医務室で父の迎えを待っていた本児が、児 童用の体重計に手をかけたところ、体重計 が傾き本児の足の傍に倒れてきた	体重計の置き場と置き方につ いての、安全管理について再度 検証し、改善していく。

2 歳児 男児	12 月 2 日	アレルギー児対応食 2 名分の専用トレーを 取り違えた。 児童が食べ始める前に気付き誤配を防い だ。	トレーには児童名アレルギー の内容を記入した付箋がつい ていたが、確認が不十分だっ た。確認の徹底をする。
2 歳児 男児	令和 2 年 2 月 26 日	給食中に眠ってしまった児童を、布団に移 し寝かせたが、30 分後、目覚めておきてき た児童の口の中にご飯が入ったままだっ た。誤飲の危険があった。	給食中眠くなってしまう児童 は他にも多数いる。 寝てしまった児童を寝かせる 際には、口の中の確認を必ず行 うこと。
3 歳児 男児	令和 2 年 3 月 3 日	2 歳児クラスの児童の投薬であったが、氏 名が同じ児童へ投与しようとしていた。 担任が気付き、誤投与は避けられた。	児童氏名の確認を徹底する。 似通った氏名も多々あるため 担任とも確認を行いながら投 与する。

地域子育て支援センター事業報告書

1. 子育て親子の交流の提供と交流の促進

就学前の在宅の親子を対象に、子育て不安の解消や保護者同士の交流の場を提供しました。

(1) 赤ちゃん広場

- ・実施日 毎週火曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳未満の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども 171名、母 160名、父 1名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごすことを中心とし、母親同士の交流の場を図る。
保育士による手あそび、親子のスキンシップ、触れ合い遊び
絵本や紙芝居の読み聞かせ、手形・足形スタンプ活動の実施。

(2) ぴよぴよ・わくわく広場

- ・実施日 毎月木曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳から3歳くらいまでの就園前の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども 92名、母 65名、父 2名、祖母 1名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごしながらか子ども同士でのあそびを楽しむとともに親同士の交流を図る。
保育士による手あそびや歌あそび、乳幼児向けの体操や絵本や紙芝居の読み聞かせ、簡単な製作活動の実施。

(3) キッズガーデン

- ・実施日 毎月第4月曜日 10:00～12:00
- ・対象 0歳から就園前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども 26名、母 15名
- ・内容 保育士とともに親子で保育園園庭にて遊ぶ。

(4) 親子の広場

- ・実施日 毎週月曜～金曜日 12:00～16:00 毎週土曜日 9:30～15:00
- ・対象 0歳から就学前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども 91名、母 65名、父 2名
- ・内容 親子でゆっくりとあそぶことができ、時間内であれば自由に立ち寄る場所として開放しました。

2. 子育て等に関する相談・援助の実施

- ・実施日 毎週月～金曜日 9:00～17:00 毎週土曜日 9:00～15:00
- ・対象 子育て中の親またはその関係者
- ・内容 来園または電話による相談

園の看護師、栄養士、重点的な支援が必要と判断された親子（家庭）については町内支援センター、保健師、役場担当課との連携と協働を図りながら対応しました。

・相談実績

相談内容	件数	相談内容	件数
基本的生活習慣	35	行政・保育所・幼稚園	3
発達・発育	4	一時保育	2
しつけ育児	7	その他	6
医学的問題	4	合 計	61

3. 地域の子育て関連情報の提供

子育て中の親子が必要とする身近な地域の子育てについての様々な情報を提供しました。

- ・しわっせ、子育て支援ひろば、また保健センター同士、情報の交換・連絡・共有をし、広場開設時に利用者に提供しました。
- ・研修・経験などで得られた専門知識を広場開設時に提供しました。
- ・センター通信を発行した。（センター予定表・子育て情報・食育情報を各1回／月）地域の方々にもセンターの情報を知っていただくためにセンター予定表を配布しました。（志和公民館、水分公民館、上平沢郵便局、社会福祉協議会等）

4. 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・広場開設時における親子体操、絵本の読み聞かせ、製作等の実施 各8回／月程度
- ・給食試食会の実施 1回／隔月 延べ参加人数 子ども 10名、大人 11名
- ・離乳食ミニ講座 1回／月 延べ参加人数 乳児 18名、大人 18名
- ・自然観察の会の実施 1回／年 延べ参加人数 子ども 0名、大人 0名
- ・親子でおやつタイム 1回／隔月 延べ参加人数 子ども 5名、大人 5名

5. 地域支援活動の実施

(1) 子育て支援ひろば

①ボランティアグループ（にこにこひろば合同）

- ・実施日 8回／年 延べ参加人数 子ども 91名、大人 110名
- ・対象 0歳から就園前の子どもとその保護者
- ・内容 にこにこひろばへ出向き、親子に遊び方を提供、又は託児。

②レッツゴー広場（しわっせと合同）

- ・実施日 3回／年 延べ参加人数 子ども 29名、大人 15名
- ・対象 0歳から就園前の子どもとその保護者
- ・内容 赤沢公民館、長岡公民館、彦部公民館へ出向き、親子に遊び方を提供しました。

③夏祭り（しわっせと合同）

- ・実施日 1回／年 延べ参加人数 子ども 86名、大人 82名
- ・対象 0歳から就園前の子どもとその保護者

- ・内 容 サンビレッジでお店屋さんごっこを提供しました。
- ④運 動 会（しわっせと合同）
- ・実 施 日 1回／年 延べ参加人数 子ども 64名、大人 75名
- ・対 象 0歳から就園前の子どものとその保護者
- ・内 容 サンビレッジで運動あそびを提供しました。

6. 世代間交流

(1) 高齢者ボランティア講座【そよかぜクラブ】の開催

支援センターを拠点に、地域の高齢者と広場参加者在園児との交流を実施しました。

- ・実 施 日 毎週金曜日 9:00～12:00
製作や行事、畑手入れ等により実施日を増やす月もあった。
- ・対 象 者 保育園近隣在住の高齢者
- ・内 容 園や支援センターの畑づくり、乳児用エプロン作り、発表会
プレゼントづくり、運動会のメダル作り、卒園児へのコサージュづくり、在園児との行事参加や交流（みずき団子など）
手作り人形劇公演 5回（園内行事1回、しわっせ2回、
稲藤公民館1回、中陣公民館1回）
- ・登 録 者 数 8名（延べ参加人数 231名）

(2) 卒園児との交流（ホームカミングデー）

卒園後の子どもたちの見守りの試みとして計画をたて、実施しました。

- ・実 施 日 1月8日（水） 15:00～17:00
- ・内 容 みそおにぎり作り、在園児との交流
- ・参加者数 小学生 20名、大人 14名、

7. 特別支援活動の実施（たんぽぽルーム）

特別な支援が必要な子どもを含め、すべての子とその保護者が集う場を提供しました。

- ・実 施 日 5回／年 延べ参加人数 子ども 38名 保護者 24名
- ・対 象 者 町内外の乳幼児から中学生とその保護者
- ・子ども活動内容 タグラグビー・クリスマス会・お楽しみ会
・大学生ボランティアの協力を得ました。

令和元年度

けやき学園 事業報告書

障がいのある方への生産活動の場の提供と生活介護事業を展開し、個々の能力を引き出すことを目標に、お一人おひとりの適性・特性に応じて次のような事業を実施しました。

1 事業所運営に関すること

(1) 利用登録者数について

- ・利用定員 50 名（就労継続支援 B 型事業 44 名、生活介護事業 6 名）
- ・当期末登録者数 42 名（B 型 35 名、生活介護 7 名。男性 22 名、女性 20 名）
（紫波町 35 名、矢巾町 2 名、花巻市 5 名）
- ・平均年齢 40.4 歳（男性 37.6 歳、女性 43.7 歳）

(2) 開所日数

- ・年間開所日数 240 日（前年度と同）
- ・月平均開所日数 20 日

(3) 利用者数

- ・年間延べ利用者数 8,701 名（前年度より 294 名減）
- ・1 日の平均利用者数 36.2 名（前年度より 1.2 名減）

(4) 職員体制について

- ・常勤職員 14 名 ・パート職員 1 名

(5) 事業稼動について

- ・生産活動の機会を提供する就労継続事業、訓練作業や情操活動等を取り入れた生活介護事業において、利用者個々の適性と特性に合わせた支援に努めました。

(6) 運営費（自立支援給付費）収入 73,816,850 円（前年度より 2,774,560 円増）

2 利用者支援に関すること

(1) 個別支援計画の作成および記録の整備について

- ・ご本人の意向を尊重し、支援計画書を前後期 2 回作成し、適正な支援に努めました。
- ・利用者個々の日常に関する記録（ケース記録）の整備に努めました。

(2) 生産活動において、個々に応じた適正作業に結びつけられるよう支援に努め、下記の成果となりました。

印刷科	3,671,254 円	手拭、タオル、Tシャツ、ジャンパー等の印刷 （前年度より 340,583 円増）
障子襖科	2,995,900 円	障子ふすま及び網戸の張り替え （前年度より 78,850 円減）
園芸科	977,730 円	花苗と寄せ植え販売、花壇用花苗の注文販売、産直出荷 （前年度より 150,090 円減）

受 託 科	1,627,951 円	調味料容器のキャップ締め、菓子袋のシール貼り、部品組立、キャップリサイクル、書類の押印ナンバリング他 (前年度より 14,750 円増) 参考) キャップ回収量 2,952 kg (前年度 3,257 kg)
計	9,272,835 円	(前年度より 126,193 円増)

①利用者への工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 4,102,920 円 (前年度より 38,320 円増)
- ・一人当たり月平均支給額 9,017 円 (前年度より 334 円増)

②売り上げ向上のため、受注チラシの配布や常置する等の対策を講じました。

(3) 生活介護事業について

- ・ウォーキングと運動施設等での活動を取り入れながら、意欲的に活動参加できるよう、家庭連絡及び職員間で連携を図りながら実施しました。

(4) 給食提供と健康支援について

- ・体重測定と嗜好調査を行い、健康支援と昼食メニューに反映させました。
- ・国内及び地元の食材使用を基本に、体調と病状に合わせた食事提供を行いました。
- ・利用者希望メニュー55回、郷土料理 42 回を提供しました。
- ・嘱託医による健康診断とインフルエンザ予防の集団接種を実施しました。
- ・家庭での通院対応が困難な利用者への通院付添を行い、病状把握に努めました。

(5) 行事、クラブ活動等について

①行事等

- ・内容が負担とならないよう、また作業量の調整を図りながら実施しました。
- ・体験旅行実施の年にあたり、コース選択による日帰りとお泊旅行を実施しました。

②クラブ活動

情操と健康維持を目的に、外部講師の協力を得ながら月 1 回実施しました。

- ・音楽クラブ 希望者 28 名 (6 月から「ふれあいフェスタ」まで月 2 回実施)
- ・3 B クラブ 希望者 23 名
- ・軽運動クラブ 希望者 23 名

③インターネット閲覧の日を週 2 回設定しました。

(6) 本人活動・自治会活動への支援については、日常での改善点などを会議や係活動を通して助言を行ない、行事企画においては意向を取り入れるよう努めました。

(7) 施設外体験として 3 回、5 名の参加で実施しました。

3 その他の事業・活動について

- (1) 苦情及び相談業務においては、職員での共有と迅速な対処および改善に努めました。
- (2) 消防署員立会いのもとに防災訓練を 2 回実施し、避難行動のポイントを学びました。

(3) 実習と見学者の受け入れについて

- ①支援学校からの実習生受け入れ 2 名 (1 校)
- ②学校機関からの体験・実習の受け入れ 4 名 (2 機関)

(4) 台風の被害地域での支援活動として、3 日間、1 名派遣しました。

令和元年度

さくら製作所 事業報告書

障がいのある方が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会・生産活動その他活動の機会を提供し、知識及び能力の向上に必要な訓練等を適切かつ効果的に行うことを目的に、各種事業を実施しました。

1 事業所運営に関すること

- (1) 利用登録者数について 定員 20 名
 - ①当期末 登録者数 17 名（男性 5 名、女性 12 名）
（紫波町 10 名、矢巾町 6 名、花巻市 1 名）
 - ・ 平均年齢 44.6 歳（前年度より、0.9 歳減）
 - ②年間の移動状況（新規利用者 4 名・就労及び他施設者数 3 名・退所者数 2 名）
- (2) 事業所開設日数
 - ①年間延べ開所日数 240 日（前年度より、4 日減）
 - ②月平均開所日数 20 日（前年度より、0.3 日減）
- (3) 利用者数
 - ①年間延べ利用者数 3,252 名（前年度より、132 名減）
 - ②1 日の平均利用者数 13.5 名（前年度より、0.4 名減）
- (4) 職員体制
 - ①常勤職員 3 名
 - ②パート職員 4 名
- (5) 運営管理について
 - ①関連機関との連絡調整会議等参加
（支援会議等） 54 回
 - ②県内外研修会参加 11 回
 - ③避難・防火訓練実施 2 回
- (6) 運営費収入について
 - ①障害福祉サービス等事業収入額 26,392,920 円（前年度より、3,504,780 円減）

2 利用者支援に関すること

- (1) 個別支援計画（日常生活・就労支援他）の作成
定期面談を実施し、個人ごとに本人の意向を重視した支援計画を作成しました。
- (2) 一般就労の推進
就労希望者に対して、ハローワークや就労支援に関わる関係機関と連携し、就労に向けた支援を実施しました。
 - ①令和元年度の一般就労者数 0 名

(3) 嘱託医による健康診断の実施

①実施回数

2 回

- ・インフルエンザの予防接種（年 1 回）を集団で実施しました。

(4) 余暇活動（食事会・軽体操・創作活動他）

外部講師等の協力を得ながら趣味創作活動を定期的に実施しました。

① 実施回数

35 回

3 生産活動の状況

(1) 生産活動の成果について

- ・個々の能力に応じた適性作業に結びつけられるよう支援に努めました。

区 分	総売上高	作 業 内 容
受注作業部	1,647,345 円	返礼品箱詰め作業、調味料のミニボトルのキャップ、工業関係部品の組立、フルーツキャップ他 (前年度より、146,474 円増)
外販促進部	133,130 円	各種販売他 (前年度より、300,910 円減)
就労促進部	2,247,203 円	メール便の配達他 (前年度より、237,125 円増)
計	4,027,678 円	(前年度より、82,689 円増)

(2) 利用者工賃支給について

①年間工賃支給総額

2,901,895 円（前年度より、111,960 円増）

・月額総額

2,492,895 円（前年度より、95,040 円減）

・賞与総額

409,000 円（前年度より、207,000 円増）

4 その他の事業・活動について

(1) 送迎サービス

①送迎サービス利用者数（当期末現在）

14 名

(2) ボランティア、地域交流、レクリエーション行事へ参加しました。

(3) 苦情解決

当事者等からの苦情（不安や悩みを含む）に適切に対応し、今後の事業所運営に反映させる事に努めました。

(4) 事業所利用体験実習、視察、学生体験実習等の受入

①年間事業所見学者数（当事者他）

7 名

②年間事業所利用体験者数（当事者）

4 名

③年間ボランティア等受入数（学生他）

35 名